

基本目標 2

変化の時代を生き抜く力を育み、 共に学び続けるまち

【教育・文化】

政策 01

子どもたちが、自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする

- 【総合戦略】 施策1. 学校教育の充実、郷土愛の醸成 96
- 【総合戦略】 施策2. 次世代を見据えた教育環境の充実 98

政策 02

だれもがいつでも人とつながり、生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

- 【総合戦略】 施策1. 生涯学習活動の推進 100
- 【総合戦略】 施策2. スポーツの振興 102

政策 03

歴史的文化資源や文化を活かした品格（魅力）あるまちを創る

- 【総合戦略】 施策1. 歴史的文化資源の保存・活用 104

政 策
01**子どもたちが、自らの将来の目標を
持ち、その実現に必要な知識や経験
を得られるようにする****施策1 学校教育の充実、郷土愛の醸成****施策目標**

和気町の子どもたちは他者と直接・間接的に関わりながら、自らの適性に気づき、能力を伸ばすとともに、郷土に誇りを持ち、様々な手段で地域の魅力を発信したり、他地域と交流したりする力を兼ね備えるなど、知・徳・体がバランスよく育まれています。

現状と課題

児童生徒数の減少等により、人間関係が固定化されやすいことを踏まえ、縦割り班活動や児童生徒会活動による、自他の理解やコミュニケーション能力等、ソーシャルスキルを身につけるための活動を行っています。

GIGA スクール構想の実現に向けては、小中学校では、ICT を効果的に活用した授業やタブレット端末を活用した個別のドリル学習による基礎学力の向上に努めています。また、様々な要因で長期欠席や不登校となっている児童生徒に対して、学校・社会との「つながり」を維持できるよう、別室等での学習といった、多様な関わり方での支援を行っています。

さらに、キャリア教育（職場体験学習等）については、これまで推進してきた中学校での取組に加え、小学校段階から将来を見据えた「夢を育む教育」「目標達成に向かう意欲の醸成」に努めています。地域人材（外部講師等）から学ぶ機会の拡充については、各中学校区への地域学校協働本部の設置により、教科の学習や特別活動、社会科等での地域人材、地域教材を活用した体験的な学習が充実してきており、地域の資産にふれながら、自らの生き方や在り方を考える機会が増えています。

こうした現状に対し、異年齢集団、他校（異校種）等との直接的またはICT 等による遠隔での交流促進が必要となっているほか、更なる児童生徒数の減少に対し、適正規模での学校運営に向けた組織の見直しも検討していかなければなりません。また、Society5.0 時代に対応した ICT 活用指導力等、教員の資質向上に向けた研修等の充実や多様な価値観や課題を持つ児童生徒に対する多様な学びの機会の提供、都市部からの移住者等地域人材の活用も必要となっています。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と回答した小6及び中3の割合	% (小6) (中3)	46.5 54.5	50.0 60.0	55.0 65.0	学校教育課
「将来の夢や目標をもっている」と回答した小6及び中3の割合	% (小6) (中3)	75.8 68.3	78.0 70.0	80.0 73.0	学校教育課
「自分にはよいところがある」と回答した小6及び中3の割合	% (小6) (中3)	75.8 82.2	78.0 84.0	80.0 85.0	学校教育課
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した小6及び中3の割合	% (小6) (中3)	45.5 53.5	50.0 55.0	55.0 60.0	学校教育課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 互いに切磋琢磨する環境づくり	オーストラリアの学校との英語による遠隔交流や、ICTを活用した町内外他校との遠隔交流等に取り組むことで、児童生徒数の減少による集団学習経験の機会損失と人間関係の固定化を打破していきます。 <具体的事業> - オーストラリアの学校との英語による遠隔交流 - ICTを活用した町内他校との遠隔交流 - 各校園における地域人材の有効活用 - 適正規模での学校運営に向けた組織見直しの研究(義務教育学校を含む小中一貫教育校等)	学校教育課
2 現代の教育課題解決に向けた学校教育の在り方	ICT活用指導力向上研修や学校不適応児童生徒等への多様な学びの機会の提供に向けた研究を行うことで、ICTを活用した教育、論理的思考力を養う教育、多様性を尊重した教育等への町民ニーズに応えていきます。 <具体的事業> - ICT活用指導力向上研修 - 学校不適応児童生徒等への多様な学びの機会の提供に向けた研究	学校教育課
3 郷土愛の醸成	「地域に開かれた学校」の実現に向け、学校と地域とが積極的に情報を共有するとともに、地域に暮らす多様な職業人に触れる機会の確保や地域人材を活用した教育活動の展開等により、児童生徒の地域への関心を高め、郷土愛の醸成を図ります。 <具体的事業> - 小中学校のコミュニティ・スクール化に向けた研究 「学校教育における実社会と関連付けた学び」の充実に向けた研究	学校教育課 社会教育課

関連する個別計画

和気町教育大綱、ICT活用計画及び達成状況を踏まえたフォローアップ計画

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
地域学校協働本部事業等、地域住民が体系的かつ網羅的に学校の活動を支援することで、家庭・地域・学校の連携を促進します。	地域住民が主体となった体系的かつ網羅的な学校支援活動が円滑に実施できるよう、財政面で支援するとともに、内容の充実を図っていきます。

**政策
01****子どもたちが、自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする****施策2 次世代を見据えた教育環境の充実****施策目標**

すべての子どもたちが安心・安全に過ごせる環境が整い、質の高い教育環境づくりのための人的支援により、情報化・国際化に対応した教育が進められています。

現状と課題

教育委員会がこれまでに行った学校園、社会教育施設の環境整備及び人的配置は次のとおりです。

まず、教育関係施設の整備状況についてですが、学校園の長寿命化については、施設の劣化状況調査を実施し、中長期的な財政負担の軽減を図るため、改築・大規模改造等の措置を勘案した計画を令和2（2020）年度に策定しました。学校園の災害対策については、町内すべての学校の耐震化工事を平成22（2010）年度末に行いました。また、熱中症対策については、すでに園内すべての教室及び小中学校の普通教室へのエアコンは設置済みでしたが、新型コロナウイルス感染症対策と併せて、小中学校の特別教室にもエアコンの整備を進めています。

次に、教育・保育の質の向上についてですが、教育の情報化対策として、すでに、GIGA スクール構想の実現に向けた一人1台のタブレット端末及び高速インターネット環境が整備されており、学校の臨時休業等に備えたオンライン授業の実施環境も整っています。人的支援では、5小中学校に計17名のスクールサポーターを配置し、個に応じた支援体制を確立しています。また、5小中学校にALTを単独配置するとともに、3にこにこ園に1名のALTを配置し、幼少期から英語に触れる環境を整えています。国や県の学級編制基準を下回る学級編制の弾力化として、町独自に教員を加配し、35人以下学級（小学1、2年生は30人学級）を実現しています。

最後に、教職員の就労環境ですが、教職員の業務の効率化に向け、校務支援システムやグループウェアによる情報共有を行っています。また、5小中学校に教師業務アシスタントを配置し、教員の事務業務の負担軽減を図っています。各学校で働き方改革の取組を行っていますが、教職員の時間外業務が常態化しており、新型コロナウイルス感染症対策の関係で、消毒や検温等、増えた業務もあります。

こうした現状に対し、社会の潮流及び和気町総合計画ワークショップに参加した各年代の意見や、和気町立学校教職員アンケートからは、Society5.0時代及びSDGsの考え方に対応した多様な学び及び交流の場（大学の誘致、交流・スポーツ施設の充実等）づくり、施設の老朽化及び災害対策や、教職員の働き方改革の一層の推進といった課題が見られます。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
教職員の月当たり時間外業務の状況（6、7月）	時間/月	小学校 63.4	小学校 40.0	小学校 35.0	学校教育課
		中学校 68.3	中学校 44.0	中学校 40.0	

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 教育関係施設の整備、充実による利用者の安心・安全の確保	学校園に通うすべての子どもたちが安心・安全に過ごせる環境づくりを目指します。また、社会教育施設利用者がより快適・安全に利用できる環境づくりを目指します。 <具体的事業> ・ 学校園の老朽化対策(長寿命化等) ・ 学校園のインクルーシブ教育対策 ・ 社会教育施設の老朽化対策	教育総務課 学校教育課 社会教育課
2 園児児童生徒及び社会教育施設利用者に提供する教育・保育の質の向上	教育の情報化及び国際化の進展に伴う教育の質的転換に向けた学校園の物的・人的環境を整備し、質の高い教育環境づくりを目指します。また、町民への生涯学習情報の提供体制づくりを進めていきます。 <具体的事業> ・ 教育の情報化(高速ネットワーク環境の維持) ・ ALTの配置 ・ 教育支援員(スクールサポーター)の配置 ・ 町独自の学級編制の弾力化 ・ 生涯学習情報の提供体制づくり	教育総務課 学校教育課 社会教育課
3 教職員の就労環境の改善	教職員の時間外業務の縮減に向け、現在、学校が担っている業務を学校(教職員)がすべきこと、家庭・地域が役割分担すること等に整理したり、教職員の事務業務を軽減し、教員が子どもたちと向き合う時間を増やすための物的・人的環境を整備したりすること等、学校現場の働き方改革の取組を進めていくとともに、保護者、地域に対する理解促進に努めます。 <具体的事業> ・ ICTを活用した業務の効率化の推進 ・ 教師業務アシスタントの配置 ・ 地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる体制づくり ・ 学校徴収金の公会計化に向けた取組	教育総務課 学校教育課 社会教育課

関連する個別計画

和気町学校施設長寿命化計画

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
行政が提供した生涯学習情報に基づく町民の生涯学習を活性化させるとともに、社会体育関係団体と連携した部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる体制づくり及び継続的な活動の実施を目指します。	現在、学校が担っている業務の家庭・地域への一部移行等、学校現場の働き方改革の取組推進に向けた、保護者、地域への理解促進に努めます。

**政策
02****だれもがいつでも人とつながり、
生涯学習やスポーツを楽しむこと
ができるようにする****施策1 生涯学習活動の推進****施策目標**

若い世代から高齢者まで、だれもが自由な意思に基づき生涯を通じて学びを楽しみ、充実した暮らしが営まれています。

現状と課題

科学技術の進歩やグローバル化などの社会の変化により、現在「持続可能な開発のための教育」（ESD）が提唱され推進されています。ESDでは、環境・貧困・人権・平和・開発といった課題を、自分自身の問題として捉え、実践していく人材を育む必要があり、今後はESD教育の上に立ってSDGsを実現する必要があります。

現在、和気町子ども応援事業を展開し、地域の教育力を活かしながら「生きる力」を育むことに取り組んでいます。今後は、高齢者や移住者を中心に知識と技能を持った方を活かしつつ、未来の和気町の姿を見据えて、SDGsを軸にした実践が求められます。また、和気町では英語を軸に公営塾事業やオンライン英会話事業を展開しています。英語だけではなく、SDGsを目指す手段として力点を置きながら進めています。しかしながら導入からまだ日が浅く、体制面や内容の充実が課題となっています。

さらに、県立和気閑谷高等学校の魅力化についてサポートを始めました。県内でも数少ない中山間地域にある高校で、人口減少の影響を強く受けている状況にあります。定員数確保のための県外募集や「閑谷學」への参画など、高校との連携を深めていますが、更なる体制の充実が望まれます。また、生涯学習の一環に位置づけることも考慮する必要があります。そのために、青少年健全育成も視野に入れて、地域全体で若者の育てる意識の醸成も重要となります。

次に、生涯学習施設は、いずれも建物の老朽化が課題となっており、長寿命化を図る必要があります。その際、上記の課題解決のために、図書館・社会教育施設における空間の有効活用も課題となっています。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
社会教育施設利用者実績（中公・サエスタ）	人	31,753	35,000	37,000	社会教育課
図書館の貸出冊数	冊	84,000	89,000	92,000	社会教育課
公営塾の利用実績（利用者／対象者）	%	25	30	35	社会教育課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 生涯学習施設の基盤整備	だれでも気軽に利用できるように生涯学習施設（体育館・学び館「サエスタ」・図書館・公民館）の環境を整え、最新の生涯学習情報を提供します。 ＜具体的事業＞ ・生涯学習施設の改修・整備及び充実 ・学習活動を促進するためのサービスの改善	社会教育課
2 生涯学習の体制構築	地域教育力の向上と増加する高齢者の参画を目指し、学びを求めるすべての町民が、学びたい内容を学びたい方法で学びたい場所で学べるよう、生涯学習情報を収集し、生涯学習施設において、各世代に応じた生涯学習や課題に応じた学習機会を提供します。 ＜具体的事業＞ ・多様な学習機会の提案 ・図書館における読書支援体制の構築	社会教育課
3 地域教育力の向上及び充実	子どもたちの生きる力を育むために、高齢者や移住者等を中心に町民の豊富な経験と知識を活用し、学校教育と社会教育が一体となり、子どもたちの学びを支えます。 ＜具体的事業＞ ・和気町子ども応援事業の充実 ・地域学校協働本部事業	社会教育課
4 公営塾・オンライン英会話事業の充実	英語力の向上だけではなくSDGsの視点を取り入れた、まちづくりの人材を育成するよう配慮しながら、学校外の児童・生徒の生涯学習の場を確保するために、公営塾及びオンライン英会話を拡充します。 ＜具体的事業＞ ・公営塾事業 ・オンライン英会話事業	社会教育課
5 和気閑谷高校魅力化事業の推進	和気閑谷高校の魅力化を図るため、県外からの入学及び下宿のサポートや「閑谷學」に対する人材派遣などの支援を行います。 ＜具体的事業＞ ・和気閑谷高校魅力化事業	社会教育課

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
自分のライフスタイルや課題に応じた学習機会やスポーツ活動に自主的に参加します。 各種活動のボランティア意識や指導者としての知識及び能力を向上します。	町民のライフスタイルや課題に応じた学習機会（各種講座や講演会など）を、関係機関や関係部署等と連携しながら、地域の教育力を活かして創出します。

政策
02**だれもがいつでも人とつながり、
生涯学習やスポーツを楽しむこと
ができるようにする****施策2 スポーツの振興****施策目標**

老若男女共にだれもが、気軽にスポーツに親しみ、かつ様々な人と交流を深めて、心身ともに充実して健康に暮らしています。

現状と課題

現在、関係団体と連携しながら、若い世代から高齢者まで町民一人ひとりの体力や年齢、技能、興味、目的に応じて運動・スポーツに親しめるよう働きかけていますが、今後は、さらに高齢化が進むことが予想され、それに伴い健康寿命の延伸が課題となっています。

そのため、高齢者を対象として、健康の保持・増進と体力向上のために、いつからでも参加できるプログラムと場の提供を行うことや、スポーツを通じた交流や親睦を図るため、各種スポーツやレクリエーションの集いや講習会などを開催するなど、ライフステージに合わせた参加機会の拡充も重要となります。

拡充を目指す一環として、地域における住民参加の場を提供する団体である総合型地域スポーツクラブとの連携を深めてきました。総合型スポーツクラブは、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多目的）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）という特徴を持っていますが、町民の高齢化に対応した参加機会の拡充という観点から、今後はこれまでに重要となってきます。それに対応する組織としての充実が課題であり、町としてサポートしていくことが必要です。

また、従来から学校教育の一環として行われ、日本のスポーツ振興を支えてきた運動部活動ですが、近年の少子化に伴い、部活動の存続そのものが難しくなり、廃部・休部を余儀なくされるケースも増えてきている現状があります。総合型地域スポーツクラブはその受け皿としても期待されており、クラブへの参加促進を図ることや、自立運営に向けて協力体制を構築することで、官民一体となってスポーツ行政の推進を図っていくことが今後の課題となっています。

以上のことを踏まえて、スポーツ環境の充実がますます重要となります。町体育館にとどまらず、和気鵜飼谷温泉や交通公園などの町内の様々な施設や、サイクリングやランニングのモデルコース設定など、町民のニーズにあったスポーツ空間を創出していくことが必要です。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
体育館利用者実績	人	42,786	45,000	47,000	社会教育課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 生涯スポーツの拡充	増加が予想される高齢者の活動に重点を置きながら、ライフステージや能力にあった生涯スポーツの機会を提供します。 スポーツ関係団体の育成や総合型地域スポーツクラブと連携を図り、地域の実情や町民のニーズに対応できる指導者の養成や確保を進めます。 <具体的事業> - 健康・体力作りの充実 - 生涯スポーツ指導者の育成と活用	社会教育課

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
自分のライフスタイルに応じたスポーツ活動に自主的に参加します。 指導者としての知識及び能力を向上します。	町民のライフスタイルに応じた運動機会（各種大会や講習会など）を、関係団体と連携しながら創出します。

**政策
03****歴史的文化資源や文化を活かした
品格（魅力）あるまちを創る****施策1 歴史的文化資源の保存・活用****施策目標**

気軽に芸術文化活動に参加できる環境が整い、人々は「豊かな心」を育み、新たな関係性や互いに認め合う多様な価値観を共有しています。また、歴史や文化を次世代へと継承し、地域・郷土に愛着する心が養われています。

現状と課題

公民館の自主講座や学び館「サエスタ」の大ホールを会場とした自主事業において、芸術文化に触れる機会の充実を図っています。また、文化協会と共催の文化祭では芸術文化活動を発表する場を提供しています。

近年は、参加者の高齢化や人口減少、さらには多様なライフスタイルのあり方により、担い手の減少が課題となっています。社会教育施設を軸に、様々な機会を通して芸術文化に触れる機会を創出し、更なる環境づくりが必要になっています。

本町は多様な歴史文化を持っており、遺跡や文化財も多数現存しています。また、和気清麻呂をはじめ津田永忠など歴史上の人物とも深い関わりがあります。とくに和気清麻呂・広虫については平成30年度より顕彰事業を進めています。

近年は、人々のライフスタイルや価値観の多様化などにより、物質的・経済的な豊かさのみならず、心の豊かさが求められ、歴史や文化に対する関心が高まっています。和気清麻呂の顕彰事業では、清麻呂を核としたまちづくりも期待されます。また、本町は移住施策を推進しており、まちづくりの観点からは、新しく町民になった方に効果的に伝えていくことが課題となります。

目標の達成度を測る指標

指標名	単位	現状値	目標値		担当課
		令和2年	令和7年	令和12年	
自主事業（ホール系）参加者実績	人	1,354	1,750	2,000	社会教育課
文化祭参加者実績	人	1,035	1,100	1,200	社会教育課
歴史民俗資料館利用者数	人	3,638	4,500	5,000	社会教育課
文化講演会等利用実績	人	0	150	300	社会教育課

施策の展開

施策テーマ	取組方針	担当課
1 多様な鑑賞・体験の機会拡充	ライフステージやライフスタイルに応じて、多くの人が鑑賞や創作活動に親しめる環境が求められていることから、町民のニーズに応じ、様々な分野の公演を開催することで、古典芸能から現代の新たな表現まで、幅広い文化芸術の鑑賞・体験機会を提供します。 加えて、学校や地域への積極的なアウトリーチ活動を展開し、様々な町民が身近に文化芸術に触れる機会を増やします。 <具体的事業> - 多様な自主事業の提案 - 気軽に文化芸術に出会う機会の拡充	社会教育課
2 町民の創作・発表の機会充実	文化芸術が個人の活動にとどまらず、多様なつながりや関係を生み出すことで社会全体が活性化します。そこで、町民が主体的に文化芸術に取り組む新たな活動の場を創出するために、町民主体の文化芸術活動支援や文化芸術活動に取り組む団体・個人の成果を披露する場（文化祭等）を、文化団体、公民館、図書館等が中心となって計画し、内容の充実を図ります。 <具体的事業> 文化祭の環境・体制整備	社会教育課
3 和気清麻呂の顕彰及び町の歴史文化の継承	町民全体がふるさと和気の魅力を再発見することを通して、次代へ受け継ごうという気持ちを醸成するために、和気清麻呂をはじめとする和気町の歴史文化について、体系的・定期的・効果的な学習機会を創出して町民に伝え、まちづくりの核とします。 <具体的事業> - 和気清麻呂公顕彰事業 - 和気町歴史民俗資料館事業	社会教育課 学校教育課 産業振興課

町民・各種団体・民間事業者・行政とともに進める協働指針

町民・各種団体等の行動目標	行政の行動目標
様々な機会を捉えて、芸術文化活動に参加するとともに、積極的に企画の運営などを通して、地域文化の向上と町の活性化へ寄与します。	町は、関係団体と連携し、芸術文化事業の機会や内容の充実を図り、町民が主体的に芸術文化に取り組む活動を支援します。

